

JAMS 関東地区 2001 年度の活動

関東地区担当 西尾寛治*

JAMS 関東地区の活動は、近年やや低調気味であった。だが、今年2月に別府で開催された JAMS 総会で関東地区委員のポストが承認されたことを受け、4月より新たに研究活動を再開した。現在、JAMS 関東地区では、読書会と研究会の2つの活動が展開されている。そこで、以下ではこうした2001年度の活動について紹介してみたい。

(1) 読書会

読書会は、『バンサ・ムラユ』(Ariffin Omar. 1993. *Bangsa Melayu: Malay Concepts of Democracy and Community, 1945-1950*. Kuala Lumpur: Oxford University Press)をテキストとし、月2回のペースで開催している。会場は東京大学駒場キャンパスの8号館の4階の研究室で、通常は金曜日夕方6時から約3時間が当てられている。読書会は、1回あたりひとつの章を読み終えるというペースである。読書会の進行は、まずレジュメ担当者が作成したレジュメをもとに報告をおこない、続いてその回に読み進む章の記述内容を確認する作業に移る。そして、最後に参加者がその内容に関して自由に論議するという手順が進められる。参加者には若干の顔ぶれの変化があるが、20~30代の若手を中心に12名程度の研究者が集まり、活発な論議を展開している。

周知のように、テキストの『バンサ・ムラユ』は、スマトラと西マレーシアの事例を対比しながら、インドネシアとマレーシアの国民国家の形成過程を論じた研究書である。そのためか、参加者のほぼ半数はインドネシア研究者であるが、彼らの多くは、この読書会を通して JAMS に加わった新入会員である。この『バンサ・ムラユ』の読書会は、JAMS の新会員獲得にもかなり貢献しているといえよう。なお、読書会にはフィリピン研究者1名の参加もみられたことを記しておく。

読書会は、当面上記をテキストとして開催し、その終了後に改めて他のテキストの選定をおこなう予定である。なお、今年11月頃に筆者の Ariffin Omar の来日が予定されている。そこで、JAMS 関東地区では、その頃に Ariffin Omar の講演会を企画することを検討している。

JAMS 関東地区の読書会は、常に新会員に門戸を開いているが、同時に40代以上の既存の会員の積極的な参加によって読書会の論議がさらに活性化することを願っている次第である。ちなみに、現在までの読書会は下記の通りである。

◇準備会:3月30日(土)14:30~18:00、東京大学駒場キャンパス8号館
出席者:JAMS 関東地区会員他9名

* 東京女子大学非常勤講師

* 読書会のテキスト、進行方法などについて協議、Ariffin Omar. 1993. *Bangsa Melayu: Malay Concepts of Democracy and Community, 1945-1950*. Kuala Lumpur: Oxford University Press をテキストに選定

◇第 1 回読書会: 4 月 12 日(金) 16:00～20:00、東京大学駒場キャンパス 8 号館

範囲: 第 1 章 Introduction

(レジュメ担当者: 西芳実)

◇第 2 回読書会: 4 月 26 日(金) 18:00～21:00、東京大学駒場キャンパス 8 号館

範囲: 第 2 章 Malayan Union: The Crisis of identity

(レジュメ担当者: 井口由布)

◇第 3 回読書会: 5 月 11 日(土) 14:00～17:30、東京大学駒場キャンパス 8 号館

範囲: 第 3 章 East Sumatra: Republic vs Kerajaan (前半)

(レジュメ担当者: 菅原由美)

◇第 4 回読書会: 5 月 24 日(金) 18:00～20:30、東京大学駒場キャンパス 8 号館

範囲: 第 3 章 East Sumatra: Republic vs Kerajaan (後半)

(レジュメ担当者: 菅原由美)

* 次回から参加費百円(資料コピー代)を徴収することが確認される

(2)研究会

研究会も今年 4 月から月 1 回のペースで開催

を予定していたが、諸般の事情により 5 月からの再開となった。ただし、5 月には、下記のように、東京大学駒場キャンパス(8 号館)及び立教大学池袋キャンパス(6 号館)を会場として 2 つの研究会を開催した。報告者はいずれも博士論文の提出者であり、博士論文の研究テーマをもとにした熱のこもった報告がなされた。

そのうち、服部さんの報告は、インドネシアの西スマトラ州における女子教育の展開を、ディニア・プトリという教育機関に焦点を当てながら論じたものである。報告では、植民地期から 20 世紀末期までの同地における女子教育の展開が扱われたが、その詳細については JAMS News 次号で掲載予定の鴨川氏による研究会報告を参照されたい。

他方、菅原さんの報告は、19 世紀ジャワにおけるイスラーム改革運動の展開を論じたものである。この報告では、ペゴン(アラビア文字を用いたジャワ語表記)で記された一次史料の分析をもとに、運動の主体並びにそれと対立したジャワ人行政官吏・宗教官吏の自己正当化の論理が詳細に検討され、当時のジャワ社会が直面していた諸問題が浮き彫りにされた。先行研究が利用しえなかったペゴン文献にまで踏み込んだ本格的な歴史研究であったが、火曜日の開催であったためか参加者が少数であったことが残念であった。

なお、6 月の研究会は、下記の(3)のようにアチェに関する研究報告を予定しているが、読書会同様これまで以上の多数の会員の参加を願う次

第である。

(レジュメ担当者:篠崎香織)

- 第 1 回研究会:5 月 17 日(金)18:00～21:00、東京大学駒場キャンパス 8 号館
報告者:服部美奈(岐阜聖徳学園大学教育学部)
テーマ:「イスラーム改革運動とムスリム女性の教育:インドネシア・西スマトラの事例から」

- ◇6 月 28 日(金)『バンサ・ムラク』読書会 7
範囲:第 5 章 Negara Sumatra Timur (State of East Sumatra)

(レジュメ担当者:國谷徹)

- 第 2 回研究会:5 月 21 日(火)16:30～18:30 立教大学池袋キャンパス
報告者:菅原由美(東京外国語大学大学院地域文化研究科博士後期課程)
テーマ:「オランダ植民地期ジャワにおけるイスラーム指導者とプリアイ間の対立:アフマッド・リファイ運動を事例として」

- ◇7 月 5 日(金)『バンサ・ムラク』読書会 8
範囲:第 6 章 Democracy through People's Sovereignty

(レジュメ担当者:未定)

(3)今後の読書会、研究会の予定

6 月以降の読書会並びに研究会の予定は次の通りである。多数の会員の参加をお待ちしております。

研究会(会場:東京大学駒場キャンパス 8 号館 414A 号室、時間:18:00～21:00 頃)

- 6 月 14 日(金):第 3 回

報告者:西芳実(東京大学大学院総合文化研究科博士課程)
テーマ:「独立戦争期アチェにおけるインドネシア共和国支持の意味」

読書会(会場:東京大学駒場キャンパス 8 号館 414A 号室、時間:18:00～21:00 頃)

- ◇6 月 7 日(金)『バンサ・ムラク』読書会 5

範囲:第 4 章 Persekutuan Tanah Melayu (Federation of Malaya) (前半)

(レジュメ担当者:篠崎香織)

- ◇6 月 21 日(金)『バンサ・ムラク』読書会 6

範囲:第 4 章 Persekutuan Tanah Melayu (Federation of Malaya) (後半)